

ASE を体験したジュニアユースサッカーチームの協調性に関する研究

久保 海人 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード：ASE, 協調性, ジュニアユースサッカーチーム

1. 緒言

近年の中学生について、協調性の低下が指摘されている。協調性はチームスポーツにおいても重要な要素である。試合に勝つためには個人が持っている最大限の力を発揮する必要がある。そのためには、チームメイト内での協力が不可欠であり、協調性はチームスポーツにおいて重要な要素の1つであるといえる。

中学生の協調性を向上させるために、著者はASEに着目した。ASEとは仲間と協力し様々な課題を解決する活動のことであり、福富ら(2014)は、ASEによってコミュニケーションや雰囲気向上を報告していることから協調性の向上についても期待できる。

そこで本研究はASEを体験したジュニアユースサッカーチームの協調性について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】2017年8月4日にB大学にて行われたASE活動に参加したLジュニアユースサッカーチームに所属する1~2年生36名の内、回答に不備のあった1名を除く35名とLジュニアユースサッカーチームの指導者2名を対象とした。

【調査方法】名尾(2015)らが作成した「多面的協調性尺度」4因子20項目を著者が中学生用に修正し、中学生94名に予備調査を行い作成した「中学生用多面的協調性尺度」3因子(協調的問題解決・調和志向・非協調性)17項目を用いてASE前後の計2回選手に実施した。指導者には著者独自に作成したチームの協調性に関する記述式アンケートをASE前後に実施した。

3. 結果と考察

1) 協調性の変容について

協調性の各因子得点の変容をみるために対応のあるt検定を行った結果、協調的問題解決因子のみASE前後で有意に向上した。ASEの最中には様々な意見を出し合いお互いの意見について話し合う場面が幾度も見られた。また、選手達は率先して課題をクリアするために協力することが出来ており、協調的問題解決の向上と関係があると考えられる。

表1 協調性因子得点平均値・標準偏差・t検定結果

	事前	事後	t値	
	M (SD)	M (SD)		
協調的問題解決	18.77(2.34)	19.69(2.04)	-2.74	*
調和志向	23.69(3.04)	22.80(3.14)	2.09	*
非協調性	3.66(1.45)	3.49(1.36)	0.84	n.s.

n=35 *p<.05

2) 学年別の協調性の変容について

学年別の協調性の変容をみるために2要因の分散分析を行った結果、1年生にのみ協調的問題解決因子について有意な向上をしており、2年生において向上はしていなかった。調和志向

因子と非協調性因子については学年別による差はなかった。

表2 学年別の協調的問題解決因子得点の平均値・標準偏差・分散分析結果

	N	事前	事後	F値
		M(SD)		
1年生	19	18.94(2.29)	20.52(2.03)	5.29*
2年生	16	18.56(2.44)	18.68(2.04)	

*p<.05

名尾ら(2015)は人と喜びを分かち合い進んで協力する傾向は、年齢が低い方が高いと述べている。これらのことから、1年生は2年生に比べて一緒に問題を解決していくという喜びが大きかったのではないかと考えられる。より大きな喜びから積極的に課題に取り組んだ結果、協調的問題解決因子が向上したのではないかと考える。

3) 選手・指導者アンケートからみた協調性の変容

選手、指導者への記述アンケートでは協調的問題解決に関わる回答が多かったことから、ASEを通して協調的問題解決に関する学びが大きかったことが分かった。調和志向に関しては選手、指導者共にアンケートで高い評価をしていることから元々Lジュニアユースサッカーチームの調和志向が高いことが分かった。

4. まとめ

今回のASE活動では協調的問題解決を学ぶことができた。今後、チームで問題が起きたとしても選手が主体的に解決できることが期待される。

調和志向と非協調性に関しては、期待した結果ではなかったため、今後は中学生の成長段階や中学生にとっての協調性の調査方法を検討する必要がある。

本研究の結果から、Lジュニアユースサッカーチームの協調的問題解決は向上したことが明らかになった。普段の練習や試合で、チームメイトや指導者からなど様々なプレッシャーを受けている選手にとって、サッカー以外の場で開放的な自然の中でゲーム要素の強い活動をするのは効果が高いと考えられる。また、ASEの場では選手全員が活動に集中し、主体的に意見を出し合うことが効果的である。

引用文献

- 1) 福富優・平野吉直(2014) ASEを取り入れたキャンプ活動がサッカーチームの雰囲気および影響国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要, 3: 57-68.
- 2) 名尾典子・登張真穂・大山智子・首藤敏元(2015) 多面的協調性尺度の作成と大学生の協調性. 人間科学研究, 37: 151-164.